

第43回

SCCJセミナー

におい・香りのコントロール技術

～基礎から製剤設計まで～

午前の部

午後の部

10:00
～
10:05 **開会の挨拶** セミナー委員長 鈴木 裕二

10:05
～
10:55 **香りの基礎知識ー香りの心理的な作用ー**
東北大学 准教授 博士(人間科学) 坂井 信之先生
このセミナーでは、香りが人の行動や気分に与える影響を中心に香りの心理学について解説する。今回は、香り物質の生理的効果を解説するのではなく、自身の研究例(香りが精神的ストレスの緩和や対人印象、手触り感などに与える効果)を中心に、海外の研究例などから帰結されるように「香りが人の認知機能(ものの考え方)に影響を与え、その結果、人のものの感じ方や行動が変化する」ことを知っていただきたいと思っている。

10:55
～
11:45 **香り、匂い、臭い及び香料とは何か?**
ー化粧品香料(フレグランス)の最近の規制動向ー
長谷川香料(株) 品質保証部 浅越 亨氏
我々が鼻で感じ取るものを、よいと感じる時は、香り、悪い場合は臭い、そのように主観を入れずに、一般的な取り扱いの場合は、匂い(におい、ニオイ)と呼ぶことが多い。これらは数多くの有機化合物(化学物質)の集合体であり、例えば、バラの香りを分析すると、100成分以上である。これらの内、工業(産業)として取り扱えるようにさせたのが、香料である。香料は、用途によって、食品香料(フレーバー)、化粧品香料(フレグランス)に、そのオリジンから、天然香料、合成香料、それらを調合技術で調合した調合香料に大別される。調合香料は、トップ(香りの第一印象を決める)、ミドル(香りの骨格)とベース(ラスト)(香りの基礎)ノートからなる数多くの合成、天然香料が調合されている。グローバルに使用されているその素材の数は、約3000である。これらの概論を述べ、国際的な業界自主基準としてのIFRA規制(化粧品の安全性評価に関する指針2008年に記載)と化学物質管理規制の最近の状況を概説する。

11:45
～
12:50 **昼食・休憩**

- 日 時 2014年2月27日(木)
10:00～17:45(受付開始9:30)
- 会 場 セミナー 大阪国際交流センター 大ホール
フリーディスカッション：同会場 さくらの間 東西
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6
<http://www.ih-osaka.or.jp/>
- 主 催 日本化粧品技術者会
☎ 045-590-6025
- 参加費 会員:13,000円/非会員:19,000円
当日参加(会員・非会員共に):19,000円

12:50
～
13:30 **化学的見地及び経験から見た香料の安定性**
高砂香料工業(株) フレグランス研究所 鈴木 隆氏
香料の安定性とは、匂いに変化しないことその他に、基剤の色を変えたり基剤成分にアタックしないことなどを指す。しかし、調合香料は数多くの化合物の混合体であり、それらは異なる化学的性質を持つため、基剤中での挙動は予測の難しい側面がある。より安定な香料を使用するための手引きとして、原料の化学的特性から予想される傾向と、香料会社の経験から導き出された知見を紹介する。香調の違いによる安定性の難易についても触れたい。

13:30
～
14:10 **香りの心理効果と化粧品への応用**
㈱コーセー 研究所 スキンケア製品研究室 香料グループ 元永 千穂氏
香りがヒトに心理的な影響を与えることは古来より認識されており、伝承医療や神祭事、様々な生活の場において利用されてきた。近年、香りの生体への作用の解明が進み、におい分子の生体における伝達経路が明らかになってきたことから、香りや情動変化などの様々な事象や生理的反応などが密接に関連していることがわかってきた。本講演では、現在社会的に注目されているストレスに着目し、香りの生理心理効果を中心にその評価方法、化粧品への応用事例を紹介する。

14:10
～
14:50 **消臭技術とデオドラント製剤への応用**
ライオン(株) 研究開発本部 ビューティケア研究所 長嶋 慎一氏
近年、より快適な生活を求める消費者の価値観やニーズの高まりを受け、デオドラント製品や布用、空間用など日用品の消臭製品市場が活況である。消臭には、感覚的消臭、化学的消臭、物理的消臭などが挙げられるが、化粧品における消臭では、消臭機能に加え、使用感との両立が重要となる。本セミナーでは、「消臭」の基礎的な方法を解説すると共に、機能と使用感を両立する製剤への応用について具体的な事例を挙げて紹介する。

14:50
～
15:00 **休憩**

15:00
～
15:40 **体臭の加齢変化に対応した防臭技術の開発**
㈱マンダム 技術開発センター 志水 弘典氏
近年、気候の温暖化や節電などの影響により、生活者の体臭に対する意識が年々高まるとともに、「スマハラ(スメル・ハラスメント)」という言葉が発生するなど、体臭の問題が、個人の悩みから、生活者のQOLを損なう社会的な問題にまで発展しつつある。本セミナーでは、特に生活者の意識が高い「中年男性特有の体臭」のニオイ特性に関する解析結果と、既知の「加齢臭」とは異なる、40歳前後のミドル男性に発生する体臭成分について、その発生機構を解析するとともに、微生物代謝抑制による防臭技術の開発事例について報告する。

15:40
～
16:20 **日本の香り～間の粧し**
㈱日本香堂 R&D事業本部 鳥毛 逸平先生
時間や空間を粧す香りとして、日本の「香」のほんの一部を紹介します。「香」は伝統を礎にして、その美学と技術は今も継承されています。「香」がこれまでどのように展開されてきたのか、ここではあえて「日本の香」にこだわり化粧品とは異なった視点でお話したいと思います。

16:30
～
17:40 **フリーディスカッション**

17:40
～
17:45 **閉会の挨拶** セミナー副委員長 万代 好孝